

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 中国財務局長

**【提出日】** 平成26年1月10日

**【四半期会計期間】** 第17期第2四半期(自平成25年9月1日至平成25年11月30日)

**【会社名】** 株式会社エムビーエス

**【英訳名】** mbs, inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 山本貴士

**【本店の所在の場所】** 山口県宇部市小串74番地3

**【電話番号】** 0836-37-6585

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理部長 栗山征樹

**【最寄りの連絡場所】** 山口県宇部市小串74番地3

**【電話番号】** 0836-37-6585

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理部長 栗山征樹

**【縦覧に供する場所】** 証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡県福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第16期 第2四半期累計期間		第17期 第2四半期累計期間		第16期	
	自 平成24年6月1日 至 平成24年11月30日	自 平成24年6月1日 至 平成24年11月30日	自 平成25年6月1日 至 平成25年11月30日	自 平成25年6月1日 至 平成25年11月30日	自 平成24年6月1日 至 平成24年5月31日	自 平成24年6月1日 至 平成24年5月31日
売上高 (千円)	665,724		799,251		1,374,736	
経常利益 (千円)	46,936		76,358		86,526	
四半期(当期)純利益 (千円)	26,192		45,548		48,680	
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)						
資本金 (千円)	185,012		185,012		185,012	
発行済株式総数 (株)	619,500		619,500		619,500	
純資産額 (千円)	529,080		633,759		586,823	
総資産額 (千円)	1,391,961		1,576,624		1,352,856	
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	42.32		74.92		79.34	
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	42.18		74.64		79.06	
1株当たり配当額 (円)						
自己資本比率 (%)	38.0		40.2		43.4	
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	7,365		63,820		55,976	
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	30,742		18,416		14,878	
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	111,066		43,123		41,473	
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	164,208		184,264		181,983	

回次 会計期間	第16期 第2四半期会計期間		第17期 第2四半期会計期間	
	自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日	自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日	自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日	自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	44.73		69.11	

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、第2四半期連結会計期間等に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

なお、当第2四半期会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、日銀の金融緩和や政府の経済政策への期待感等から、円安・株高が進行し、企業収益の改善や個人消費に明るさが戻る等、景気回復の兆しが見受けられました。

しかし、一方では、円安による原材料価格の上昇や電気料金の値上げ、平成26年4月からの消費税増税による消費減退への懸念等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属する建設業界におきましては、公共投資は復興関連予算の執行等により堅調に推移したことに加え、民間設備投資も回復傾向がみられたものの、引き続き建設コストの高騰が工事収益を圧迫する等、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社は、新たに千葉支店を設置するとともに既存店におけるパートナー（工務店等）との関係強化に取り組み、受注拡大を図って参りました。また、原価低減と経費削減、工事採算性を重視した受注方針の徹底、施工管理と品質・技術の向上に努めるとともに、人材育成を積極的に行い、業容拡大や収益力の向上等も図って参りました。

これらにより、当第2四半期累計期間における売上高は、799,251千円（前年同期比20.1%増）、営業利益は、68,589千円（前年同期比76.1%増）となりました。また、経常利益は、外国社債に関する有価証券利息7,380千円、支払利息1,690千円の計上等により76,358千円（前年同期比62.7%増）、四半期純利益は、法人税等の計上により45,548千円（前年同期比73.9%増）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

なお、当第2四半期会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### (ホームメイキャップ事業)

ホームメイキャップ事業におきましては、ホームメイキャップ工法による内外装リフォーム工事等の増加により、売上高は742,384千円（前年同期比22.0%増）となり、セグメント利益は、128,432千円（前年同期比42.0%増）となりました。

( 建築工事業 )

建築工事業におきましては、新築及び改修工事等の増加により、売上高は55,526千円(前年同期比12.5%増)となり、セグメント利益は、3,164千円(前年同期比109.7%増)となりました。

( その他 )

不動産事業、加盟店関連事業等で構成されるその他の事業におきましては、当第2四半期累計期間において不動産売買取引や不動産仲介手数料等が発生せず、また材料販売等の減少により、売上高は1,340千円(前年同期比83.4%減)となり、セグメント利益は、389千円(前年同期比89.0%減)となりました。

( 2 ) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における資産の部は、前事業年度末に比べ223,767千円増加し、1,576,624千円となりました。これは主に、完成工事未収入金の90,082千円の増加、未成工事支出金の39,851千円の増加、受取手形の28,929千円の増加等によるものであります。

負債の部は、前事業年度末に比べ176,831千円増加し、942,864千円となりました。これは主に、工事未払金の91,866千円の増加、買掛金の50,249千円の増加、長期借入金の34,888千円の減少等によるものであります。

純資産の部は、前事業年度末に比べ46,936千円増加し、633,759千円となりました。これは主に、利益剰余金の45,548千円の増加等によるものであります。

( 3 ) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前年同四半期会計期間末に比べ20,055千円増加し、184,264千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

( 営業活動によるキャッシュ・フロー )

営業活動の結果、得られた資金は63,820千円(前年同四半期に使用した資金7,365千円)となりました。これは主に、税引前四半期純利益に加え、仕入債務の増加額142,116千円等によるものであります。

( 投資活動によるキャッシュ・フロー )

投資活動の結果、使用した資金は18,416千円(前年同四半期に使用した資金30,742千円)となりました。これは主に、保険積立金の積立による支出20,185千円等によるものであります。

( 財務活動によるキャッシュ・フロー )

財務活動の結果、使用した資金は43,123千円(前年同四半期に得られた資金111,066千円)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出34,868千円、社債の償還による支出5,000千円等によるものであります。

( 4 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

( 5 ) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は、7,691千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

( 6 ) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見直し

当第2四半期累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,098,000
計	2,098,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年1月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	619,500	619,500	福岡証券取引所 (Q - B o a r d市場)	単元株式数は100株であります。
計	619,500	619,500		

(注) 提出日現在発行数には、平成26年1月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年9月1日～ 平成25年11月30日		619,500		185,012		165,642

(6) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	平成25年11月30日現在
			発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
山本 貴士	山口県宇部市	189,100	30.52
極東ホールディングス株式会社	山口県下関市彦島老町3丁目1-2	99,500	16.06
鳴本 聡一郎	山口県下関市	37,100	5.99
エムビーエス従業員持株会	山口県宇部市小串74番地3	20,700	3.34
田中 栄	神奈川県横浜市西区	15,900	2.57
井野口 房雄	山口県防府市	15,400	2.49
株式会社エムビーエス	山口県宇部市小串74番地3	14,400	2.32
山本 朋子	山口県宇部市	13,000	2.10
原 真也	兵庫県明石市	12,000	1.94
松岡 弘晃	山口県宇部市	11,900	1.92
計		429,000	69.25



## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 14,400		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 605,100	6,051	同上
単元未満株式			
発行済株式総数	619,500		
総株主の議決権		6,051	

## 【自己株式等】

平成25年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社エムピーエス	山口県宇部市小串74番地3	14,400		14,400	2.32
計		14,400		14,400	2.32

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成25年9月1日から平成25年11月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年6月1日から平成25年11月30日まで)に係る四半期財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年5月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	181,983	184,264
受取手形	52,510	81,439
完成工事未収入金	190,530	280,612
売掛金	4,843	31,977
原材料及び貯蔵品	21,244	29,455
未成工事支出金	63,304	103,155
販売用不動産	1,769	1,769
その他	12,446	18,989
貸倒引当金	5,184	7,940
流動資産合計	523,448	723,724
固定資産		
有形固定資産	115,782	112,033
無形固定資産	890	478
投資その他の資産		
投資不動産	320,567	320,567
投資有価証券	315,346	322,510
その他	87,850	108,327
貸倒引当金	11,029	11,017
投資その他の資産合計	712,734	740,386
固定資産合計	829,407	852,899
資産合計	1,352,856	1,576,624
負債の部		
流動負債		
工事未払金	157,176	249,043
買掛金	15,890	66,140
1年内返済予定の長期借入金	81,699	81,719
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
未払法人税等	17,562	34,339
完成工事補償引当金	42,957	47,378
その他	42,101	92,579
流動負債合計	367,388	581,199
固定負債		
社債	20,000	15,000
長期借入金	339,716	304,828
資産除去債務	3,141	3,351
その他	35,786	38,484
固定負債合計	398,644	361,664
負債合計	766,032	942,864

	前事業年度 (平成25年5月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年11月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	185,012	185,012
資本剰余金	165,642	165,642
利益剰余金	184,871	230,419
自己株式	8,664	11,904
株主資本合計	526,861	569,169
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	59,962	64,589
評価・換算差額等合計	59,962	64,589
純資産合計	586,823	633,759
負債純資産合計	1,352,856	1,576,624

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年6月1日 至平成24年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)
売上高	665,724	799,251
売上原価	479,085	560,632
売上総利益	186,639	238,619
販売費及び一般管理費	147,687	170,029
営業利益	38,951	68,589
営業外収益		
不動産賃貸収入	1,913	2,213
有価証券利息	5,614	7,380
その他	3,581	621
営業外収益合計	11,109	10,216
営業外費用		
支払利息	2,130	1,690
その他	994	757
営業外費用合計	3,124	2,447
経常利益	46,936	76,358
税引前四半期純利益	46,936	76,358
法人税、住民税及び事業税	20,112	33,117
法人税等調整額	631	2,308
法人税等合計	20,743	30,809
四半期純利益	26,192	45,548

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年6月1日 至平成24年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	46,936	76,358
減価償却費	2,789	4,361
貸倒引当金の増減額(は減少)	473	2,743
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	4,146	4,420
受取利息及び受取配当金	5,915	7,807
支払利息	2,130	1,690
売上債権の増減額(は増加)	57,746	146,145
たな卸資産の増減額(は増加)	33,547	48,062
仕入債務の増減額(は減少)	56,531	142,116
その他	1,245	51,408
小計	13,606	81,085
利息及び配当金の受取額	301	426
利息の支払額	2,833	1,445
法人税等の支払額	18,440	16,244
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,365	63,820
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
保険積立金の積立による支出	15,787	20,185
貸付けによる支出	15,000	5,950
貸付金の回収による収入	311	6,411
敷金及び保証金の差入による支出	267	365
敷金及び保証金の回収による収入	-	1,673
投資活動によるキャッシュ・フロー	30,742	18,416
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	50,000	-
短期借入金の返済による支出	50,000	-
長期借入れによる収入	250,000	-
長期借入金の返済による支出	24,473	34,868
リース債務の返済による支出	762	-
社債の償還による支出	105,000	5,000
自己株式の取得による支出	8,697	3,254
財務活動によるキャッシュ・フロー	111,066	43,123
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,970	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	70,987	2,281
現金及び現金同等物の期首残高	93,221	181,983
現金及び現金同等物の四半期末残高	164,208	184,264

## 【注記事項】

## (四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年6月1日 至 平成24年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年6月1日 至 平成25年11月30日)
給料手当	62,007千円	70,038千円
支払手数料	15,246 "	15,608 "
販売手数料	6,995 "	9,044 "
貸倒引当金繰入額	756 "	2,743 "

## (四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年6月1日 至 平成24年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年6月1日 至 平成25年11月30日)
現金及び預金	164,208千円	184,264千円
現金及び現金同等物	164,208千円	184,264千円

## (株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成24年6月1日 至 平成24年11月30日)

## 株主資本の著しい変動

当社は、第2四半期会計期間において、平成24年11月20日開催の臨時取締役会における自己株式の取得決議に基づき、平成24年11月22日付で自己株式11,400株の取得を行いました。この結果、当第2四半期累計期間において、自己株式が8,664千円増加し、当第2四半期会計期間末において8,664千円となっております。

当第2四半期累計期間(自 平成25年6月1日 至 平成25年11月30日)

## 株主資本の著しい変動

当社は、第2四半期会計期間において、平成25年11月20日開催の臨時取締役会における自己株式の取得決議に基づき、平成25年11月21日付で自己株式3,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期累計期間において、自己株式が3,240千円増加し、当第2四半期会計期間末において11,904千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成24年6月1日 至 平成24年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ホームメイ キャップ事業	建築工事業	小計		
売上高					
外部顧客への売上高	608,298	49,374	657,672	8,052	665,724
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	608,298	49,374	657,672	8,052	665,724
セグメント利益	90,415	1,509	91,924	3,538	95,463

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業、加盟店関連事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	91,924
「その他」の区分の利益	3,538
全社費用(注)	56,512
四半期損益計算書の営業利益	38,951

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



当第2四半期累計期間(自 平成25年6月1日 至 平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ホームメイ キャップ事業	建築工事業	小計		
売上高					
外部顧客への売上高	742,384	55,526	797,911	1,340	799,251
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	742,384	55,526	797,911	1,340	799,251
セグメント利益	128,432	3,164	131,596	389	131,985

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業、加盟店関連事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	131,596
「その他」の区分の利益	389
全社費用(注)	63,395
四半期損益計算書の営業利益	68,589

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期累計期間から「不動産事業」について、量的な重要性が乏しくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報は、当第2四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成24年6月1日 至平成24年11月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年11月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	42円32銭	74円92銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	26,192	45,548
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	26,192	45,548
普通株式の期中平均株式数(株)	618,939	607,936
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	42円18銭	74円64銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	2,054	2,285
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 1月10日

株式会社エムビーエス  
取締役会 御中

### 三優監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 吉 川 秀 嗣 印

業務執行社員 公認会計士 大 神 匡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エムビーエスの平成25年6月1日から平成26年5月31日までの第17期事業年度の第2四半期会計期間(平成25年9月1日から平成25年11月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年6月1日から平成25年11月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エムビーエスの平成25年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

- (注) 1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2．四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。